

シンポジウム目次

日時;2014年5月26日(月) 11時45分～15時

場所 ; 仙台市 電力ホール

司会 シンポジウムの主旨と講師の紹介 (5分)
ナルク副会長 田邊 榮一郎氏

基調講演 「被災地における地域包括ケア ～どこまでできるのか～」(40分)

さわやか福祉財団 理事長 堀田 力

(要旨) そうでなくても人口が減少していく地域で、最後まで自宅で暮らせる医療や介護、生活支援のサービスができるのだろうか。まだできる可能性があるとはいえ、行政のタテ割り、医療や介護の事業者の消極的姿勢などを打ち破って実現させるほどの力が、住民には残っているだろうか。

活動拠点基調報告

ナルク中標津 代表 山崎 弘氏 (10分)

ナルク宮城 代表 林 茂氏 (10分)

パネルディスカッション

司会 コーディネーター、パネラー、コメンテーターの紹介 (5分)

コーディネータープレゼン

「被災地で高齢化社会を考える」 (15分)

ナルク会長 高畑 敬一氏

(要旨) 少子高齢化が進みつつある現在、地域包括ケアを中心に、ナルクほかNPO、ボランティア団体は何をすればよいのか。孤独死対策、子育て支援、成年後見、介護保険のインフォーマルサービスなど、地域の支え合いの絆を求めていくことが被災地の復興にもつながるのではないかと……。被災地での状況、実態、ニーズの発表、そして日本経済、社会保障についての問題提起をパネリストの皆さんにお願いし、その上に立ってディスカッションしたいと思います。

パネラープレゼン

・「仮設住宅での実状とニーズについて」 (15分)

仮設住宅 居住自治会長代表

(要旨) 仮設住宅居住者の生活の実状と不安。いま何を求めているのか。PTSD、トラウマ、生活不活発病の実態は。今後どのようなまちづくりをすればよいのか。

・「東北における被災地を訪問して」 (15分)

河北新報社 編集委員 寺島 英弥氏

(要旨) 被災地、地元の立場から、現場における三年経っての復興の見通しが立っていない実態を中心に発表し、何が問題か、どこにポイントがあるのか、そしてメディアと現場がどう繋がって何を発信し、全国民の意識を盛り上げるべきなのか。

・「社会保障改革のゆくえ」 (15分)

読売新聞東京本社 編集局 社会保障部次長 猪熊 律子氏

(要旨) 団塊世代の高齢化が進むなか、日本の社会保障制度は超高齢社会に合った改革が求められている。高齢世代も若者世代も、誰もが安心して暮らせる社会を築くにはどうすればよいのか。被災地の方々も含め、みんなで考えたい。

・「日本経済のゆくえ」 (15分)

日経CN BC 経済解説副委員長 豊嶋 広氏

(要旨) アベノミクスで回復に向かうと見られる日本経済だが、高齢化社会、人口減少が進む中で、安定的な成長軌道に戻れるかは予断を許さない。世界最悪レベルの財政状態も鑑み、民主導の自律的な活動の重要性は、一段と増す。東北復興への財政基盤は……。

ディスカッション (45分)

コーディネーターの進行による。

コメンテーター結び (5分)

さわやか福祉財団 理事長 堀田 力氏

(要旨) 以上のディスカッションの上に立って、少子高齢化が進む中での日本経済、社会福祉、地域包括ケアを学び、NPO、ボランティアの社会責任と東北の早期復興をひろく呼び掛けねばならない。

司会 終了のあいさつとお礼の言葉。

以 上